

◇取材随行記◇

R4. 2. 27

「働く」をテーマに、高校生が被爆者の方と1対1で取材を行いました。
今回は、遠藤君（高2）と増川氏（80）のペアに随行した様子をお伝えします。



取材の様子

増川氏について事前に調べ、聞きたいことを質問する遠藤君。役に立てるならと真摯に向き合っていた。

若者に対し、増川氏は「パソコンやテレビの画面を通してではなく、できるだけ被爆者の“生の声”を聴いてほしい。今しかできないことだから。」と語った。



取材を通して (高校生の感想)

高校の新聞部として、これまで様々なトピックを取り上げてきた中で、この事業に興味を持ち応募しました。今まで、学校や学年単位で被爆体験講話を聞いてきましたが、今回は1対1で直接お話しすることができ、とても貴重な経験になりました。これからは、自分が学んだことや感じたことを分かりやすく噛み砕き、同世代に伝えていきたいと思います。



写真を撮る場面では、
構図などについてアドバイスを受けました



草野さんのコメント

取材を通して、心に寄り添って共感することの大事さを学んでほしいです。上手な言葉遣いより、そういう気持ちが重要だと思います。

この事業で継承の形の答えがすぐに出るわけではないですが、ヒントになると信じ、これからも続けていきたいと思っています。

